

第9期 福岡市男女共同参画審議会（第4回）議事録

- 1 開催日時 令和4年1月31日（月）14:00～15:00
- 2 場 所 天神スカイホール ウェストルーム（一部オンライン形式）
- 3 出席者（出席委員 14名）
石田委員、石橋委員、石森委員、井上委員、岩崎委員、北村委員、境委員、
篠隈委員、須藤委員、益村委員、室谷委員、森川委員、安木委員、
力丸委員
（欠席委員 3名）
（福岡市 4名）
男女共同参画課長 外3名
- 4 傍聴人 3名
- 5 議 題 福岡市男女共同参画基本計画（第4次）の進行管理及び実施状況評価の
方法について
- 6 議事概要（○…委員 △…福岡市）

【議題 福岡市男女共同参画基本計画（第4次）の進行管理及び実施状況評価の方法について】

△＜資料1により福岡市男女共同参画基本計画（第4次）について説明＞

○ 第4次計画の数値目標に記載の限りでは、徐々に良い方向へ向かっていると推察するが、数値の推移を知りたいと感じた。数値目標が第1次計画から引き継がれているのであれば、第4次計画までの推移を可能な範囲で教えてほしい。また、国際的な水準に照らし、どの辺りに位置しているのか知りたい。今後の目標設定にも役立つと思う。

△ 第4次計画の数値目標は、第3次計画から引き継いでいるものもある。第1次計画からの推移については、後日お示ししたい。国際的な水準については、国や県の数値はあっても国際的な数値が無いものもあり、全てが比較できるか分からない。確認の上、可能な範囲でお示ししたい。

○ 本日は第4次計画の進行管理と実施状況評価について審議しているが、実際に第4次計画の評価を行うのは今年の夏頃であり、第4次計画に基づいてどの程度実施されているかが本格的に評価されることになる。その際、できる限り国際的な水準に加え、県など日本国内の水準も意識しながら説明するようお願いしたい。福岡市の状況が分かりやすくなると思う。

○ 第4次計画の数値目標の「基本目標5 福岡市役所における女性管理職比率」について、「旧県費負担教職員を含む」との記載があるが、具体的にはどのような職員のことを指しているのか。

△ 「旧県費負担教職員」とは、給与負担等の権限が県から指定都市に移譲された市立の小・中・特別支援学校の教職員のことである。平成29年度に財源が県から市へ移ったため数値が2種類あり、このように記載した。

△<資料2により福岡市男女共同参画基本計画（第4次）の進行管理及び実施状況評価の方法（案）について説明>

○ 2点変更点があり、1点目は、第4次計画の総合評価の部分である。第4次計画策定時も、第3次計画の4年間の実績を踏まえて策定に反映させている。この部分は同様であるが、第4次計画からは5年目の評価を行わないという点を変更している。2点目は、別紙1のとおり一般評価様式のレイアウトを変更したということである。これまでは資料が膨大であったが、分かりやすくレイアウトを変更したということ。以上2点を審議したい。

○ 1点目について、第4次計画の総合評価は、令和3年度から6年度までの4年間の評価内容を踏まえて、第5次計画に反映させることで終わるということで良いか。5年目の評価は審議会では審議しないとして、その結果は審議会委員には何らかの形で公表するのか。

△ 引き続き説明はしたいと考えている。

○ 第4次計画の5年目の評価については、第5次計画に反映された後の実績であり、事後的な数値になるため、報告という形になるということ。これまでも事実上そうっており、その点を確認するというで良いか。

○ 総合評価について、「第4次計画の成果と課題を明らかにし」と記載があるが、具体的にどのような形で教えてもらえるのか。令和3年8月に実施した、第3次計画の進行管理の審議会資料のような形か。

△ 数値目標については、数値が出ているものについては毎年度説明している。一般評価項目についても毎年度報告している。その中で成果や課題を説明したいと考えている。

○ 基本目標に対して、毎年どの程度進捗したのか評価しており、その4年間の実績を踏まえて、第5次計画に反映させるということ。そういった形でこれまでどおりやっていくということである。

○ 一般評価に関しては各事業実施担当課において行うことは理解しているが、どう評価するか具体的な基準があるのか。チームで評価するのか、トップが決めるのか、誰が評価をしているのかが気になった。

△ 基本的には事業を実施している担当課で達成度を評価している。例えば、中学生向け出前セミナーは、昨年度新型コロナウイルス感染症拡大の影響でなかなか実施できない状況があったが、代替としてオンラインで実施したことも含めて評価している。一つ一つの事業について、担当課から評価の根拠を示してもらい、根拠も含めて確認した上で、最終的な評価として審議会へ報告している。

○ 関連して意見を述べたい。前回の繰り返しになるが、事業実施担当課としては、「どのくらい実施したか」がそのまま評価になりがちではないか。実施の目的がどれ程達成できたかという効果の面で評価してほしい。例えば、出前講座であれば、どのくらい出前講座を実施したかという実施度でなく、受講者の満足度をもって効果を測定してほしい。その適否も含めて、実施した事業の成果がどの程度出ているかという視点も含めてほしい。

○ 目標に対して、単純に事業を実施したかどうかという評価になりがちであるが、特に出前講座などアンケートがあるものは、受講者の満足度を反映し、質の部分も盛り込んで評価してほしい。次回の第4次計画の1年目の評価においては、その点を意識してほしい。

△ 例えば、中学生向け出前セミナーでは生徒のほか先生にもアンケートをとっており、それも含めて掲載したいと考えている。

○ 実施したかどうかだけでなく、質の面も意識して評価をお願いしたいという点について、審議会からの要望としたい。

もう1点の一般評価様式のレイアウトの変更について意見はあるか。これまでとの相違点は、予算額の記載を割愛するほか、一覧表で、昨年度と比較できるようなレイアウトになっている。

○ 重点評価について、これまでどおり「順調、おおむね順調、やや遅れている、遅れている」という区分で実施するという点は良いか。一覧表にして分かりやすくするという点で良いか。

○ 他の自治体では、市民グループや専門的なNPOがヒアリングも含めて外部評価を行っている聞いた。市民グループやNPOの代表が審議員になっている自治体もあるようだ。

久留米市がそうだと聞いた。福岡市では市民グループや NPO と連携したヒアリングや評価をしていないのか。外部評価として審議会の評価を受ける形になっているが、自己評価を追認しているようにも感じており、本当に今のやり方が外部評価になっているのか疑問を感じる。審議会委員もそれぞれの分野や専門があると思うが、他自治体では市民グループや NPO の目線もあると聞いたため、福岡市ではどうなっているか気になった。

△ 現在の審議会委員に市民グループや NPO の代表は入っていないが、日常的なヒアリングはしている。例えば、今年度より開始した「女性のためのつながりサポート事業」は、NPO に委託し事業を実施している。NPO の意見も踏まえて実際の事業を実施しているというところはある。

○ 実際の事業を実施するときにも、日常的に連携して進めている実績があるということか。

○ 審議会の委員には入っていないが、NPO 等とは日常的に連携して事業を進めているということである。

○ 一般評価の場合にも、市民グループや NPO が入っているという認識で良いか。

△ 一般評価は担当課が実施しており、市民グループや NPO が入って評価を行うことはない。「女性のためのつながりサポート事業」については、NPO に委託して実施するほか、複数の NPO にヒアリングを行い実施している。評価に直接携わっているわけではないが、ご意見を踏まえて事業を進めている。

○ 審議事項の「福岡市男女共同参画基本計画（第4次）の進行管理及び実施状況評価の方法」については、事務局案のとおり、ただし今後の評価にあたっては、質の部分を含めて評価するように意識してほしいということで、審議会からの要望としてよろしいか。

（異議なし）